

10. コロンビア国での調査結果所見

関係各位殿 (To Whom it may concern)

拝啓 (Dear Sir)

私共、森林造成技術者集団研修コース

巡回指導チーム (TECHNICAL FOLLOW-UP TEAM FOR JICA EX-PARTICIPANTS OF GROUP TRAINING COURSE IN REFORESTATION TECHNIQUES AND FOREST MANAGEMENT) 調査団員は、以下の通りの SUMMARY REPORTを提出申し上げます。

今般の関係機関と帰国研修員との面談及び帰国研修員を対象とした造林技術セミナーを通じて、今後の本件研修コースの改善のための様々な貴重なる意見並びに指摘事項を拝聴出来ました事に対し深く感謝いたします。

下記に述べます通り、次回以降の本件研修コース実施に当りましては、拝聴出来ました意見等を出来るだけ反映させていくよう努力したいと思います。

将来とも森林造成技術協力を通じ両国の理解と親善が増々深まることを希望いたします。

敬 具 Sincerely Yours

Yasuyuki SUZUKI

SUMMARY REPORT BY THE TECHNICAL FOLLOW-UP TEAM FOR THE
EX-PARTICIPANTS OF THE GROUP TRAINING COURSE IN REFORE-
STATION TECHNIQUES AND FOREST MANAGEMENT

I 概 要

日本国政府技術協力計画に基づき、国際協力事業団（JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY）によって実施されている集団研修コース森林造成技術者コースの帰国研修員を対象として、以下Ⅱの通りの調査団員構成による巡回指導チーム（the technical follow-up team）派遣に際し貴国を訪問する機会が得られました事は誠に喜びとするところでございます。

貴国を発つに当り、巡回指導チームは今回訪問いたしました貴国政府関係機関に対し、1982、2. 9. 以来6日間のフォローアップ活動調査の概要を報告申し上げます。

調査団一同は、貴国滞在期間中あたゝかい歓迎と多大なる協力をたまわったコロンビア政府関係者各位、帰国研修員、民間企業者並びにボゴタ日本国政府関係者各位に対して心からお礼を申し上げます。

II TEAM MEMBERS

Assignment	Name	Present Position
Leader	Mr. Yasuyuki SUZUKI	Instruction Officer, Forestry Training Institute, Forestry Agency
Planning and Evaluation	Mr. Kazuya ANDO	Chief of International Cooperation Unit, Administration Division, Forestry Agency
Coordinati- on	Mr. Toshiharu KAI	Training Officer, First Training Division, Training Affairs Department, Japan International Cooperation Agency (JICA)

III OBJECTIVES

今回の巡回指導チームの主な派遣目的は、以下の通りであります。

1. 過去森林造成技術者コースに参加した帰国研修員との面談を通じ、我が国で得た知識と技術をどのように活かしているかの効果測定及び技術適用度の評価調査
2. 森林造成分野におけるコロンビア国一般的実情、技術水準及び今後の我が国の研修に対するニーズの把握
3. 対象関係機関の概要調査及び帰国研修員の動向調査
4. 森林造成技術分野における技術セミナーを帰国研修員を対象に開催し、我が国の最新の技術

情報の提供及びコロンビア国技術水準向上のための技術指導

IV SUMMARY OF DAILY SCHEDULE

月／日（曜日）	行 程	調 査 内 容
2/9（水）	サンパウロ→リマ→ボコタ	移 動
2/10（木）	ボコタ A.M. 10:00~12:00 P.M. 14:00~15:30 16:00~18:00	日本大使館表敬・打合せ JICA海外事務所表敬・打合せ INDERENA；表敬・機関概要調査、研修コース説明・協議、コロンビア国林業事情調査、林業文献供与 ICETEX；表敬・機関概要調査 研修コース説明・協議、JICAの活動紹介、林業文献供与
2/11（金）	ボコタ A.M. 10:00~12:00 P.M. 14:00~17:00 19:30~22:30	"Francisco Jose de Caldas"市立大学 林学科表敬 林学科系諸施設見学、コロンビア国林業系教育システム概要調査、我が国林業系教育システムの紹介、林業文献供与、研修コースの説明 CIAFにて造林技術セミナー開催； 視聴覚機材による我が国林業事情紹介、JICAの活動紹介、JICAの造林技術プロジェクトの紹介 熱帯造林の紹介、我が国最新の林業機械紹介 参加者との林業事情討論による情報交換及び質疑応答 帰国研修員との面談 討議の後歓迎パーティ

月/日(曜日)	行 程	調 査 内 容
2/12 (土)	ボゴタ A. M. 8:30~10:30 11:30~16:00	INDERENAの独立 林業試験研究機関である“LA FLORIDA” 諸施設の見学と機関概要調査 民有林ユーカリ造林地及び電柱等木材製造工場 見学(民間企業経営)
2/13 (日)	ボゴタ	資料整理及びレポート作成
2/14 (月)	"	日本大使館・JICA事務所 帰国報告・表敬
2/15 (火)	ボゴタ→ニューヨーク→東京	帰 途

V. 本コース関係機関での調査結果の要約

本コース帰国研修員の所属機関及び本コースの取扱い窓口機関を訪問し、その機関の概要及び本研修への要望・意見等を調査した結果は、以下のとおりであった。

1. 天然資源・環境庁(INDERENA)

コロンビア農務省の下部機関の1つであり、水、森林、動物、漁業、国立公園、環境に関する行政を司どる。なかでも森林行政と漁業行政はINDERENAにとって根幹的地位を占めている。コロンビア国政府にとって植林の遂行は、焼畑、不法侵入等による森林へ荒廃を防ぐためにも緊急の課題となっており、現在までに17万haの造林が行われてきた。

すなわち、年間およそ3万5千haの造林事業が行われてきており、今後そのペースを増加させる計画である。そのため、現在まで、森林資源の調査、林地区分、境界区分等が自力であるいは他国及び国連の援助のもとに積極的に行われてきた。造林の事業実行は、INDERENA自身が行うのではなく月間に実施させるとのことである。INDERENAは、その重点項目として、上述の資源調査、造林の遂行以外に、木材関連産業の育成(特にカウカを中心とする太平洋側とカリブ海沿岸)をあげていた。

ところで、INDERENAはコロンビア森林行政の最高機関であり、5人の帰国研修員のうち3人がINDERENAの職員であったが、現在では1人だけがINDERENA職員であった。

INDERENAから出された本コースへの要望等は以下のとおりである。

- (1) コロンビアへの割当人数を毎年1~2名にしてほしい。
- (2) 造林技術者を必要としているので、本コースはINDERENAにとって大変有意義である。
- (3) 本コース以外の林業・林産業コースへも積極的に参加したい。

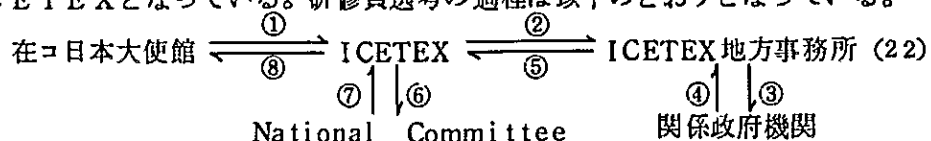
(4) 本コースの期間を延長してほしい。

(5) 木材の利用、マーケティングに関する内容を盛り込んでほしい。

2. 教育援護・海外留学推進庁 (ICETEX)

文部省 (Ministry of Education) には総数 23 の下部機関があり、ICETEX はその中の 1 つである。ICETEX の目的は、奨学金制度の導入によりコロンビアの教育・文化の開発をはかることにある。その活動の 1 つに、国際的奨学金制度の利用によりコロンビア人を海外留学させることがあり、このことから、本コースに関するコロンビア政府窓口は

ICETEX となっている。研修員選考の過程は以下のとおりとなっている。



本コースへの希望者は多く、定員 1 名に対し 5 ～ 10 名の候補者が⑤の段階で上がってきており、それを受けて ICETEX 本庁においては書類審査の上 2 ～ 3 名に絞り込む。この結果は、文部大臣を議長とし関係閣僚レベルから構成される国家委員会 (National Committee) にはかれて最終的に 1 名が決定し、当該委員会の事務局となる ICETEX から大使館あて正式に回答がなされる。ICETEX は研修員選出にあたっては、資格要件を厳重にチェックしており、本コースに関しては、森林の造成・管理ということから国の重点施策とも一致しており、慎重に取り扱っているとのことである。

ICETEX は、研修中及び研修後の研修員のフォローアップにも気を配っており、研修中は定期的にコロンビアの最新情報等を研修員に配布している。また、研修後は、フォローアップ事業として研修直後とそれ以後ある期間において帰国研修員に追跡調査を行っており、研修の効果的利用に努めている。

本コースへの参加にあたっての最大の問題点は語学力にあるとのことであるが、本コースへの要望は特になかった。

なお、JICA 集団研修以外の研修員の取り扱い窓口は、ICETEX ではなく経済企画庁 (DNP) 技術協力課となっている。

3. フランシスコホセカルダス市立大学

この大学は、帰国研修員の所属機関ではないが、帰国研修員のうち 3 名がこの大学出身である。コロンビア国内で林学科を有する大学は 3 校ある。

本大学は教授陣が非常勤講師も含めて約 30 名、学生が 300 名であり、5 カ年間の教育を行っている。講座内容も、造林、土壌、樹木学、木材加工、生態、樹病、生理等多岐にわたっている。

わが方から、本コースの内容等の説明、情報提供を行った結果、大学関係者からは本コースへの強い関心が示された。

VI 帰国研修員からの本コースへの要望・意見等

帰国研修員にはあらかじめ、クエスチョンネアールを配布しておき、面談の時に回収した。研修員との面談には5名全員、12名はボゴタ市内、1名はカウカ市内、2名はメディジン市内在住が参加し、クエスチョンネアールもほぼ回収した。帰国研修員との面談内容及びクエスチョンネアールの内容は以下のとおりである。

1. 帰国研修員の現職

別紙1のとおり

2. 研修成果の活用状況

研修成果は、直接に現在の仕事に役立っていることが判明した。具体的には以下のとおりである。

- (1) 苗畑作業体系、機械化、伐出、林業組織、治山、育種、林業経営等が現在でも役に立っている。
- (2) 実習で覚えたことが今でも役に立っている。
- (3) 日本の日常生活は、コロンビアのかかえる問題点を分析するのに役立っている。

3. 本コースへの要望・意見

- (1) 現場視察をもっと入れるべきである。
- (2) 木材産業、海外林業等に係る講義を加えてほしい。
- (3) 行政に係る講義は削除してほしい。
- (4) 研修成果を活用するにあたり十分な資機材がないのでフォローアップ事業として考慮してほしい。
- (5) 研修終了後も最新の林業技術を提供してほしい。
- (6) 研修日程は、研修開始前に各研修員に送付してほしい。

4. 本コースへの要望・意見に対するコメント

- (1) 割当人数を毎年1～2名とすること。

このことについては、本研修の参加者を広く開発途上国に求めること及びコロンビア国と日本との過去における林業分野のつながりはそれ程強くはなかったことから毎年1～2名の割当を行うことは困難である。しかし、コロンビア国の林業への取り組み方が熱心であり強く本研修への参加を要望していることは理解できた。

- (2) 期間の延長について

期間の延長は、本コースの一般的内容、研修員受入れ体制等から困難である。

- (3) 研修カリキュラムに木材利用マーケティング木材産業、海外林業を加えることは、時間的に余裕があれば可能である。

- (4) 現場視察をふやすことは、研修経費の制約からむずかしい面もあるが、有意義と思われる。現地視察は充実してゆくことができる。

- (5) 帰国研修員への資機材供与・情報提供等のフォローアップ事業は、大変有意義であるので
予算の範囲内で対応可能と思われる。
- (6) 研修日程の事前配布は、研修員の決定通知と同時に送付できるよう検討する。

VII 技術セミナーの開催

技術セミナーは下記の要領により実施した。

日 時： 2月11日（金） 14:00～17:00

場 所： ボゴタ市内 Centro Interamericano de Fotointerpretación (CIAF)

出席者： 日本側 巡回指導員 高橋二等書記官

石井 JICA所長、通 訳

コロンビア側

帰国研修員5名全員

INDERENA他関係者約40名

セミナー： あいさつ主旨説明

視聴覚機材による日本林業技術の紹介、質疑応答

使用した視聴覚機材

- | | | | |
|--------------------------|------|-----------|------|
| 1. Forestry in Japan | (英語版 | 16mm フィルム | 20分) |
| 2. Activities of JICA | (英語版 | スライド | 20分) |
| 3. Trees for Pantabangan | (英語版 | 16mm フィルム | 30分) |
| 4. 新しく開発された林業機械 | (現地音 | 8mm フィルム | 30分) |
| 5. Forest in the Tropics | (英語版 | 16mm フィルム | 20分) |

質疑応答

1. 新しい機械の構造しくみについて（自動枝枝機）
2. 日本における林業の経済性について
3. モノレールの効用について
4. 日本の再造林の制度について
5. 日本の林業・林産業の状況について

上記質問に対し、既存の資料等により適宜回答を行った。

所 見

日本の林業に対して、コロンビア国の林業関係者の理解を得ることができた。コロンビア国では森林を伐採し焼畑農業を行う入植者のため、林地が消失することに危機感をいだいている。

これらの林地を早急に復旧するための造林が大きな課題である。

帰国研修員が日本で見聞した林業を関係者に伝達してもその実態を理解されないことが多い

ということであり、今回の一般の関係者を含めてのセミナーには大きな効果があった。視聴覚機材によって理解を求めることの重要性を再認識した。

VIII 技術情報等の提供

別紙 2 のとおり。

研 修 員 の 現 職

研修年度	氏 名	年 令	研 修 時 の 所 属	現 在 の 所 属
1976	German Prieto Montealegre	43	INDERENA 林業課課長	INAGROFORESTAL 社 社長 (造林会社)
"	Norberto Vélez	46	コロンビア国立大学メデジン校林学科助教授	コロンビア国立大学メデジン校林学科教授
1979	Eduardo Hoyos Rozo	40	INDERENA 造林課 補 佐	CVC (カウカ地区自治共同体) 技師 (造林担当)
"	Jorge Igracio Del Valle Arango	42	コロンビア国立大学メデジン校林学科助手	コロンビア国立大学メデジン校林学科助教授
1982	David Yanlne Diaz	41	INDERENA 林業技師	研修時に同じ

別紙 2

供与した技術情報等のリスト

供 与 文 献 資 料 名		INDERENA	ICETEX	市立大学
1. 林業試験場年報	(和)	○		
2. " 研究報告	(英)	○		
3. " 研究発表報告	(和)	○		○
4. 森林航測	(和)	○		○
5. 林業技術	(和)	○		○
6. 国の事業で新しく開発された林業機械	(和)	○		
7. Wood Industries in Japan	(英)	○	○	○
8. Forestry in Japan	(英)	○	○	○
9. Forestry Technology in Japan	(英)	○		○
10. Mori	(和)	○	○	
11. Nippon - 日本 -	(英)	○	○	
12. 林業機械便覧	(和)	○		
13. Administration of Forests and Forestry in Japan	(英)	○	○	
14. Forestry and Forest Products in Japan	(英)	○	○	○
15. Abstracts and Statistics on Agriculture, Forestry and Fisheries	(英)	○		
16. Forestry and Forest Products Research Institute	(英)	○	○	○
17. El Japon de Hoy	(西)		○	
18. 林業白書抜萃	(英)	○		
19. Expo '85 Bulletines		○	○	○
20. フィルム「Frests in the Tropics」		○		
21. スライド「Frestry in Japan」		○		

(ス ペ イ ン 語)

Bogotá, Marzo, 1983

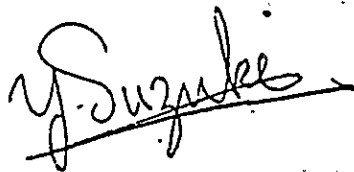
Señores:

Nosotros, los miembros de La Misión de "Follow-up para Los Ex-Becarios del Curso Colectivo sobre TECNOLOGIA DE REFORESTACION Y ADMINISTRACION FORESTAL, tenemos el agrado de enviarles a ustedes adjunto a la presente, el informe de nuestro trabajo realizado en la República de Colombia.

Estamos muy agradecidos por haber podido escuchar opiniones y sugerencias muy importantes para mejorar el curso de entrenamiento en el futuro, mediante las conversaciones sostenidas con las autoridades relacionadas y ex-becarios y el seminario sobre técnicas de reforestación, y haremos nuestros mayores esfuerzos para aprovechar sus opiniones y sugerencias en los próximos cursos.

Deseamos sinceramente que ambos países puedan estrechar aún más los lazos de amistad y comprensión a través de la cooperación técnica en reforestación y el manejo de los bosques.

Atentamente,



YASUYUKI SUZUKI

Jefe de la Misión

AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL
DEL JAPON "JICA"

INFORME SUMARIO POR LA MISION DE "FOLLOW-UP" PARA LOS EX-BECARIOS
DEL CURSO DE ENTRENAMIENTO COLECTIVO SOBRE TECNOLOGIA DE REFORES-
TACION Y ADMINISTRACION FORESTAL.

1. Generalidades

Ha sido para nosotros un gran placer haber podido visitar a su país en calidad de equipo evaluador técnico de los ex-participantes en el curso de entrenamiento sobre Tecnología de Reforestación y Administración Forestal, efectuado por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón, de acuerdo al programa de cooperación técnica del gobierno de Japón. El equipo evaluador estuvo conformado por los expertos relacionados en el aparte 2.

Antes de partir, la misión desea presentar el siguiente informe correspondiente a 6 días de trabajo en las diferentes entidades gubernamentales desde el 9 de Febrero/83 hasta el 15 de Febrero/83.

Aprovechamos la oportunidad para agradecer sinceramente a los funcionarios de las entidades gubernamentales colombianas, a los ex-becarios, a los particulares y a los funcionarios de la misión diplomática japonesa en Bogotá, que nos facilitaron la atención muy hospitalaria y todas las facilidades del caso.

2. Lista de Miembros de la Misión

<u>Asignación</u>	<u>Nombres</u>	<u>Posición Actual</u>
Jefe	Yasuyuki Suzuki	Instructor - Instituto de Entrenamiento en Silvicultura, Agencia de Silvicultura.
Planeación y Evaluación	Kazuya Ando	Jefe de la Unidad de Cooperación Internacional, División de Administración de Silvicultura, Agencia de Silvicultura.
Coordinación	Toshiharu Kai	Oficial, Primera División de Entrenamiento. Depto. de Entrenamiento. Agencia de Cooperación Internacional Del Japón.

3. Objetivos

Los objetivos principales de la Misión fueron los siguientes:

- 1) Investigación de la aplicabilidad y asimilación de los conocimientos técnicos adquiridos en el Japón por los becarios mediante entrevistas con los ex-becarios participantes en el curso.
- 2) Investigación de la situación actual de Colombia en el campo de la reforestación, su nivel técnico y el interés en los cursos que está organizando el gobierno de Japón.
- 3) Investigación de los organismos correspondientes al sector y de la situación actual de los ex-becarios.
- 4) Organización de un seminario sobre Tecnología en reforestación y manejo de bosques para los ex-becarios y suministro de informaciones sobre los avances tecnológicos del Japón y orientación tecnológica para mejorar el nivel técnico de Colombia.

4. Itinerario

<u>Fecha</u>	<u>Lugar</u>	<u>Actividades</u>
Feb. 9 (Miércoles)	Sao Paulo- Lima-Bogotá	Traslado a Bogotá
Feb. 10 (Jueves)	Bogotá	10:00 a 12:00 Visita de Cortesía a la Embajada de Japón y Jica. 14:00 a 15:30 Visita de Cortesía al INDERENA. Investigación gral. del organismo. Explicación del Curso del Entrenamiento. Investigación sobre la situación de Silvicultura en Colombia. Entrega de documentos y libros al INDERENA.

16:00 a Visita de cortesía
 18:00 al ICETEX. Visión
 global del organismo.
 Explicación sobre el
 curso.
 Presentación de las
 actividades de Jica.

<u>Fecha</u>	<u>Lugar</u>	<u>Actividades</u>
Feb. 11 (Viernes)	Bogotá	10:00 a 12:00 Visita de cortesía a la Facultad de Inge- niería Forestal de la Universidad Distrital Francisco José de Caldas. Recorrido de observación por las instalaciones de la Facultad. Investigación sobre el sistema de edu- cación en las carreras de Ingeniería Forestal en Colombia. 14:00 a 17:00 Apertura del Seminario sobre la Tecnología de Reforestación en C.I.A.F. Presentación sobre la situación de Silvi- cultura en el Japón mediante materiales audiovisuales. Introducción de los proyectos sobre tecno- logías de reforesta- ción de Jica. Presentación sobre el sistema de reforesta- ción tropical. Presentación de los últimos equipos y ma- quinarías japonesas para la explotación y aprovechamiento de recursos madereros.

Foro sobre la situación de la Silvicultura con los participantes.

19:30 a 22:30 Entrevista con los ex-becarios.

El Cocktail de Bienvenida a la Misión.

<u>Fecha</u>	<u>Lugar</u>	<u>Actividades</u>
Feb. 12 (Sábado)	Bogotá	08:30 a 10:30 Visita de observación al laboratorio de la investigación sobre la Silvicultura "La Florida", perteneciente al INDERENA. Conocimiento del organismo. 11:30 a 16:00 Visita de observación a la plantación privada de eucaliptos y al aserrío privado, productor de postes eléctricos.
Feb. 13 (Domingo)	Bogotá	Organización de la información y documentación obtenidos en Colombia y preparación del informe.
Feb. 14 (Lunes)	Bogotá	Visita a la Embajada de Japón y Jica y charla sobre las actividades desarrolladas en Colombia.
Feb. 15 (Martes)	Bogotá-N.York-Tokio	Regreso.

5. Resumen de la Información obtenida en las diferentes entidades relacionadas con los Ex-becarios

Visitamos las diferentes entidades a que pertenecan los ex-becarios, así como al organismo que coordina la selección y desplazamiento de los becarios en Colombia. Las siguientes son las generalidades de cada una de las entidades y opiniones expuestas a nosotros respecto al curso de entrenamiento.

1) INDERENA (Instituto Nacional de los Recursos Naturales Renovables y del Ambiente)

Es un organismo descentralizado adscrito al Ministerio de Agricultura y ejecuta la política sobre Recursos hídricos, silvestres, flora y fauna, así como sobre parques nacionales y el medio ambiente. Especialmente la política sobre la fauna y la flora, son las funciones primordiales del Instituto. El gobierno colombiano considera de una labor prioritaria, la reforestación con el fin de evitar la destrucción de bosques y selva causadas por las invasiones, tala y quema de los bosques. Hasta el momento, se ha reforestado una extensión de 170.000 hectáreas y en este momento se reforesta un área de 35.400 hectáreas aproximadamente por año.

Existe además un plan de duplicar el área de reforestación con el fin de alcanzar esta meta, y se han hecho investigaciones e inventarios forestales, parcelación y delimitación de bosques con recursos propios del gobierno o con la asistencia de la ONU y de otros países.

INDERENA nos informó que la ejecución de la reforestación no se hace por ellos mismos sino que se deja a las entidades particulares. Además de las investigaciones del recurso maderero y de la ejecución de la reforestación, INDERENA tiene un especial interés en desarrollar la industria maderera en el país, especialmente en la Costa Pacífica con centro en el departamento del Cauca y en la Costa Atlántica.

INDERENA es el organismo supremo en la política del control de bosques en Colombia, y 3 de los 5 ex-becarios pertenecían al INDERENA, pero actualmente sólo 1 trabaja con esta institución.

Las siguientes fueron las opiniones presentadas por INDERENA a nosotros:

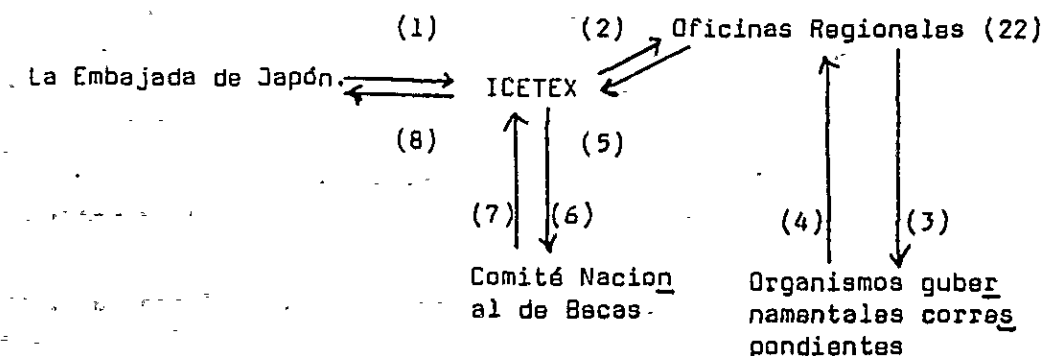
- a) Desea que la cuota del curso para Colombia se incremente a 1 ó 2 becas por año.

- b) Colombia carece de los ingenieros especializados en Reforestación y al INDERENA le parece que el curso es de mucha utilidad.
- c) Desea enviar encarecidamente más expertos al curso de la ingeniería maderera, además del ofrecido actualmente por el gobierno japonés.
- d) Desea la prolongación del período del curso.
- e) Desean que en el curso se traten materias relacionadas con el aprovechamiento ó elaboración de recursos madereros así como su mercadeo.

2) ICETEX (Instituto Colombiano de Crédito Educativo y Estudios Técnicos en el Exterior)

El Ministerio de Educación de Colombia cuenta con 23 organismos descentralizados e ICETEX es uno de ellos. El propósito del ICETEX es desarrollar la educación y cultura del pueblo colombiano mediante la canalización del sistema de becas y una de sus actividades es desplazar a los estudiantes colombianos al exterior, canalizando los sistemas becarios de diferentes países y por lo tanto las becas para este curso también las administra ICETEX en representación del gobierno colombiano.

Los procedimientos para la selección de becarios son como sigue:



Los aspirantes para este curso siempre han sido numerosos y para una beca se presentan de 5 a 10 candidatos en la etapa No. (5).

ICETEX principalmente preselecciona para recomendar 2 ó 3 candidatos después de analizar los documentos del candidato. El Comité Nacional compuesto por delegados de los Ministerios correspondientes y presidido por el Ministro de Educación

estudia los candidatos recomendados y finalmente selecciona un becario y el resultado lo informa oficialmente al ICETEX a la Embajada de Japón. Nos informaron que el ICETEX efectúa chequeos muy rígidos de los documentos de los candidatos para la selección del becario y para este curso, siendo un curso muy correspondiente a una de las políticas importantes del gobierno como la reforestación y el control de bosques, tramita las labores de selección con mucho interés y cuidado.

ICETEX se preocupa por dar la atención a los diferentes becarios, tanto en tiempo de la beca como después de terminado el curso. Envía las últimas informaciones sobre la situación del país a los becarios durante su estadía en el exterior y efectúa evaluaciones inmediatamente después de la beca y después de haber transcurrido cierto período, con el fin de analizar los resultados del estudio.

Como el problema principal de este curso, nos informa sólo el nivel del idioma inglés, en el cual se dicta el curso. No nos habían informado de otros problemas.

3) UNIVERSIDAD DISTRITAL FRANCISCO JOSE DE CALDAS

Esta Universidad, a pesar de que los ex-becarios no pertenecen a esta institución, ha enviado tres egresados como becarios al curso. En Colombia existen 3 Universidades que cuentan con Facultad de Ingeniería Forestal y esta institución cuenta con aproximadamente 30 profesores incluyendo los profesores de medio tiempo y 300 estudiantes que asisten a la carrera de 5 años. Las materias dictadas son variadas tales como: Reforestación, Suelos, Fisiología, Aprovechamiento de la madera, Ecología, Enfermedades, etc.

Nosotros hicimos la presentación sobre el curso de entrenamiento a los funcionarios de la Universidad, quienes manifestaron interés muy especial en el curso.

6. Sugerencias y Opiniones de los Ex-becarios respecto al Curso

Con anticipación presentamos cuestionarios a los ex-becarios y recogimos sus respuestas en la entrevista personal.

En la entrevista personal participaron los 5 becarios y recibimos la mayoría de las respuestas para los cuestionarios. Dos de ellos viven en Bogotá, uno en Cali y dos en Medellín.

El siguiente es el contenido del cuestionario y el resultado de entrevistas con los becarios:

- 1) La posición laboral actual de cada uno de los becarios :
Según el Anexo N.º. 1:
- 2) Aplicación de los estudios realizados en Japón durante el curso: En general, se ha confirmado que los estudios realizados han servido en su actual actividad laboral por los siguientes motivos concretos:
 - a) Las materias estudiadas, tales como el sistema de adecuación de semilleros, mecanización, tala, sistema de explotación maderera, Control Ecológica de Bosques, Cultivo de Semillas, Administración de Industria maderera, han servido en diferentes actividades laborales a los becarios.
 - b) Lo mismo sucede con las experiencias adquiridas en las labores de campo.
 - c) La vida diaria experimentada en Japón ha contribuido para analizar los problemas existentes en la vida colombiana.
- 3) Sugerencias y Opiniones para el Curso.
 - a) Debe programar mayor número de visitas de observación a los campos de trabajo.
 - b) Desea que se introduzcan cátedras sobre la industria de aprovechamiento de los Recursos Madereros, Explotación Maderera en ultramar etc.
 - c) Que se descarte la cátedra sobre la política maderera.
 - d) En Colombia hacen falta equipos y materiales necesarios para poder desarrollar los conocimientos adquiridos en el curso y desean que el gobierno de Japón estudie la posibilidad de facilitárselos en extensión de las labores posteriores al curso.
 - e) Desean que se les envíen informaciones sobre los últimos adelantos del Japón sobre los aprovechamientos de los Recursos Forestales aún después de terminado el curso.
 - f) Desean que se les envíe a los becarios el programa de estudios a realizarse antes del comienzo del curso.

4) Respuestas y Comentarios respecto a las Sugerencias y Opiniones antes presentadas.

- a) Incremento de la cuota de beca a 1 ó 2 por año.
En consideración de que la política del gobierno de Japón es invitar becarios del mayor número de países en vía de desarrollo y en vista de que la vinculación entre Colombia y Japón en este campo no ha sido muy estrecha, es difícil incrementar la cuota a uno ó dos por año como ellos quisieran. Sin embargo, nosotros hemos podido entender que existe una actitud muy positiva del gobierno para la sana explotación del recurso y que existe un interés muy fuerte en enviar becarios para el curso.
- b) La prolongación del período o tiempo del curso: En consideración de las materias contempladas en el curso y estructura actual para el recibo de becarios en el Japón, etc. es difícil.
- c) Adición de más cátedras.
En caso de que se logre disponer de tiempo para estas cátedras, será posible.
- d) Incremento de visitas de observación a los campos.
Por la limitación del presupuesto, no es fácil hacer el incremento, pero no se descarta efectuar más visitas si se comprueba que es de utilidad.
- e) Suministro posterior de materiales e información a los ex-becarios: Lo consideramos de mucha importancia y estudiaremos las posibilidades dentro del presupuesto asignado.
- f) Distribución anticipada de los programas de estudio: Estudiarían la fórmula para poder enviárselos inmediatamente se conozca la lista de los becarios favorecidos.

7. Apertura del Seminario Técnico.

El Seminario Técnico se realizó de la siguiente forma:

Fecha : Febrero 11 (Viernes)
Hora : De 14:00 a 17:00
Lugar : Oficina Centro Interamericano de Fotointerpre -
tación. Bogotá

Participantes : POR JAPON : Los miembros de la Misión,
el Sr. TAKAHASHI - Segundo
Secretario de la Embajada.
Sr. ISHII - Representante
de JICA en Bogotá - Intér-
prete.

POR COLOMBIA : Los ex-becarios (5), funcio-
narios colombianos del
INDERENA etc. (Aproximada-
mente 40).

Programa del Seminario.

- 1) Explicación y orientación de los propósitos.
- 2) La presentación de la Tecnología japonesa sobre la
industria maderera a través de material audiovisual.
- 3) Foro

Materiales Audiovisuales utilizados.

- 1) Silvicultura en Japón (en inglés de 16 mm, 20 minutos)
- 2) Actividades de JICA (en inglés, diapositivas, 20 minutos)
- 3) Arboles para partahargan (en inglés, 16 mm, 30 minutos)
- 4) Nuevas máquinas para la industria de aserrío (en español,
8 mm, 30 minutos)
- 5) Bosques en el Trópico (en inglés, 16 mm, 20 minutos)

PREGUNTAS

- 1) La estructura y el sistema de la nueva máquina (podadora
automática)
- 2) Factibilidad Económica de la Industria maderera en Japón.
- 3) La utilización de monorriel.
- 4) El Sistema de Reforestación continua en Japón.
- 5) La actualidad de la Silvicultura y la Industria Made-
rera del Japón.

Para estas preguntas dimos respuestas aprovechando debidamente
la información a mano.

OBSERVACIONES

Hemos podido lograr la comprensión de las personas involucradas en la industria de la madera en Colombia respecto a la situación de la industria japonesa de la madera. Existe una inquietud muy grande entre los expertos Colombianos de que los recursos se destruyen fácilmente por los colonos que invaden los bosques talándolos y quemándolos para cultivar en ellos.

La Reforestación para recuperar estos bosques perdidos es por lo tanto un objetivo principal en Colombia.

Los ex-becarios han manifestado que no se comprende la actualidad de la industria maderera del Japón vista por ellos aunque han tratado de comunicarles a los interesados locales y que por eso el seminario organizado en esta oportunidad, invitando inclusive a los particulares interesados, fue de gran utilidad. Además nos dimos cuenta nuevamente de la importancia y eficacia de la presentación por materiales audiovisuales.

8. Entrega de Documentos y Libros Técnicos, etc.

Según el Anexo No. 2

LA POSICION LABORAL DE EX-BECARIOS

AÑO	NOMBRE	EDAD	POSICION LABORAL CUANDO OBTUVO LA BECA	POSICION LABORAL ACTUAL
1976	Germán Prieto Montealegre	43	INDERENA, Jefe de la División de Reforestación.	Presidente de INACROFORESTAL (Entidad especializada en reforestación)
1976	Norberto Vélez	46	Profesor Asistente en la Facultad de Ingeniería Forestal, Seccional de Medellín de la Universidad Nacional.	Profesor Titular en la Facultad de Ingeniería Forestal, Seccional de Medellín de la Universidad Nacional.
1979	Eduardo Hoyos Rozo	40	Asistente de la División de Reforestación del INDERENA.	Ingeniero C.V.C. (Corporación Autónoma Regional del Valle del Cauca) Encargado de Reforestación.
1979	Jorge Ignacio del Valle Arango	42	Monitor en la Facultad de Ingeniería Forestal, Seccional de Medellín de la Universidad Nacional.	Profesor Asistente en la Facultad de Ingeniería Forestal, Seccional de Medellín de la Universidad Nacional.
1982	David Yanina Díaz	41	INDERENA, Ingeniero Forestal	Ingeniero Forestal

LISTA DE INFORMACIONES Y LIBROS ENTREGADAS

	Nombre de Libros y Documentos	INDERENA	ICETEX	UNIVERSIDAD FRANCISCO JOSE DE CALDAS
1.	Informe anual del Instituto de Silvicultura. (J)	0		
2.	Informes de Investigaciones del Instituto de Silvicultura. (I)	0		
3.	Informe de Investigaciones publicadas del Instituto de Silvicultura. (J)	0		0
4.	Fotointerpretación Forestal. (J)	0		0
5.	Técnicas de Silvicultura (J)	0		0
6.	Máquinas y Equipos nuevos para la industria de aserrío desarrollados en los proyectos nacionales de Japón. (J)	0		
7.	Wood Industries in Japan (I)	0	0	0
8.	Forestry in Japan (I)	0	0	0
9.	Forestry Technology in Japan (I)	0	0	0
10.	Mori (J)	0	0	
11.	Nippon (I)	0	0	
12.	Manual de máquinas y equipos para la industria de aserrío (J)	0		
13.	Administration of Forests and Forestry in Japan (I)	0	0	
14.	Forestry and Forest products in Japan (I)	0	0	0
15.	Abstracts and Statistics on Agriculture, Forestry and Fisheries (I)	0		
16.	Forestry and Forest Products Research Institute (I)	0	0	0
17.	El Japón de Hoy (E)		0	
18.	Extracto del Libro Blanco sobre Silvicultura (I)	0		
19.	Expó 85 Bulletinas (I)	0	0	0
20.	Película, Forests in the Tropics	0		
21.	Diapositiva, Forestry in Japan	0		

11. 入手資料リスト

ブラジル国

- Situação Florestal Brasileira, 1977 ブラジル農業省
- Considerações Sobre as Atividades do Setor Florestal Brasileiro, I.B.D.F.
- Forestry Development and Research Brazil - National Forest Policy Planning, FAO Report, 1978, I.B.D.F.
- Programa Nacional de Pesquisa Florestal (Período 1983-1985) EMBRAPA
- Madeiras da Amazônia - Volume 1 Floresta Nacional do Tapajós, I.B.D.F.
- Background on Brazil - A Profile and Fact Sheets on the Economy, Industry and Agriculture, EMBRAPA
- Diretrizes para a Política Florestal Brasileira Período de 1979-1985, I.B.D.F.
- Manual de Cooperação Técnica, SUBIN
- Perspectivas e Tendências do Setor Florestal Brasileiro, 1975 A 2000, [Vol. I]
- El Sector Forestal: Informe de Países, 1982
- Diretrizes Estratégicas Para o Setor Florestal Brasil Florestal: ano 2000, I.B.D.F.
- Programa Nacional para Aproveitamento de Varzeas Irrigáveis - Provárzeas Brasil, ブラジル農業省
- Análise da Balança Comercial de Produtos Florestais, 1982, I.B.D.F.
- Instituto Florestal, São Paulo Brasil
- Pronapa (Programa Nacional de Pesquisa Agropecuária), EMBRAPA
- Programa de Entrepósitos Madeireiros para Exportação Promaex, 1982, I.B.D.F.
- PRODEPEF (Projeto de Desenvolvimento e Pesquisa Florestal) - Uma Análise Estatística de Atual Situação Florestal Brasileira
- Brazilian Agriculture, A Manual for the Foreign Investor, ブラジル農業省
- Código Florestal - Proteção à Fauna - Criação do IBDF - Regulamento dos Parques Nacionais Brasileiros, I.B.D.F.

コロンビア国

- Plan Costa Pacifica (Nariño y Cauca)
- Código Florestal (Lei N.º 4.771 de 15-IX-1965), 1970
- El Recurso Forestal en Colombia
- Plan de Prevención de Incendios en Plantaciones Forestales para el Area Jurisdiccional de la CVC (Corporacion Autonoma Regional del Cauca)
- Buenaventura - CVC
- Actividades - 1981, CVC
- Carta Informativa - ICETEX (Instituto Colombiano de Credito Educativo y Estudios Tecnicos en el Exterior)
- Areas de Vocacion Forestal Agropecuaria y de Uso Multiple de Colombia - CONIF
- Analisis de la Situacion Forestal de Colombia (Part - I), 1977

JICA

